

全仏通信

三月号
発行所 財団法人
全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ一(本願寺内)
電話 〇三九六九
〇三九一三
振替 東京三六〇〇
発行人 阿部章伝
編集者 伊東聖純
印刷所 ルンビニ社

現代に生かす彼岸の意義

あついで、寒いも彼岸まで、とゆう言葉があるが、人來り又去って天たがわずで、季節の移りかわりは洵に正直であります。

いまは、彼岸の言葉すら知らない人もあつて、国民の祝日たる、春分の日、秋分の日としてのみ制定されてはいても、この日を中日として前三日、後三日の一週間は「お彼岸」であることにかわりはないのです。

春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」国民の祝日として、又秋分の日「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」日とされていますが、この二つを、あわせ持つのが本当のようです。

野も草も木も人もけものも鳥も、寒い冬の中に、苦しきや悲しき、つめたさに耐えて、やがて来る春をまつのです。じめじめした梅雨、息苦しい夏の炎天の下で、かわきに耐えて

やがて、さわやかな秋の訪れを待つのです。

彼岸とは「あなたの岸」と書きますが彼の岸があれば「あなたの岸」があるに違いないのです、人のくらしを「世渡りする」といいますから、此岸から彼岸へと渡る長い道中ともいいます。実にわたくし共は永い永い道中を旅する重い荷を負った、旅人でもありません。

又「この世」があれば「あの世」もあるはずですし、子のない人があつても親の無い人はないのですからいま私共が在ることは「生れ、はぐくまれ、いつくしまれた」ことへの感謝があるのです。

人の世には希望を捨て去ることはい出来ない、子供には子供の、ねがいがあり大人には大人の望みがあり、いかにしてその希望を果さんか、とそれぞれに考え、努力しているのです。

昼と夜の時間が等しく、太陽が東西の軌道に進んで、自然の氣候

も春となる二十四氣の第四に當るとゆうのですが、みんな待ちにまつた春がきたと実感されるのがこのころで、人々はこのときを、心身の修養週間としたのでした。

実にすばらしい考え方でした。彼岸の持つ意義は、無常を説き忍耐の尊さを教え、自然の偉大さと先人への感謝、又は希望への努力、さらには自分を見つめる、ふりかえる、などの幾多の意義があるのですが、いまのような忙しい、あわただしい、常に何かに追われてはとりの多き時代にこそ、そなた不安感の多い時代にこそ、じっくりと落着いて、彼岸の持つ意義をかみしめるひとときがほしいものです。

特に、祖先のお墓参りやお寺参りの機会に、法話を聞いたり檀信徒同志のつながりを持つことは、これからの若い人達には、もつとも望ましいことでもあります。

三月十六日 全仏主催でベトナム犠牲者追悼法要

全仏では、三月十六日午後二時から東京文京区音羽の大本山護国寺において、「ベトナム戦争犠牲者追悼法要」を開催し、過去二年に亘る内乱による多数の犠牲者の冥福を祈り、以てベトナムの平和招来を祈念する。

当日は護国寺貫主岡本教海大僧正大導師のもと、山内式衆総出で法要を執行し、高階全仏会長の法話があり、終つて毎日新聞外信部長大森実氏の「ベトナム問題の今後の見通し」と題する記念講演をきく。

全仏派遣

印度仏跡巡拝・各国訪問団募集

全仏派遣第二回印度仏跡巡拝並びに各国訪問日本仏教代表団を左記要領により募集いたします。ふるって御参加下さるようお願いいたします。

記

一、期間 第一班、十一月六日(土)出発、十二月三日(金)帰国、第二班、十一月十三日(土)出発、十二月十日(金)帰国の夫々二十八日間

一、旅 程 タイ、ビルマ、印度、ネパール、セイロン、マレーシヤ、香港、台湾

一、費用 金五十五万四千円
一、人員 両班とも二十名迄

一、資格 加盟宗派、仏徒、団体の推せんする方で僧俗男女を問いません。

一、申込 全仏国際局あて
電話 (542) 一一九六九番

(詳細は国際局へおたづね下さい)

主催 全日本仏教会

ハワイ花まつり日程 きまる

四月十日から十日間

既報の通り、全仏ではハワイ・ホノルルにおいて、同仏教徒連盟主催の「ハワイ花まつり大会」へ多数の代表を派遣することになったが、このほど日程が左のとおり決定した。なお参加資格は僧俗男女を問わないと云うところから、相当数の人員が期待されている。全仏では各宗、各派、仏教会、団体から多数これに参加するよう要望している。

日 程 表

四月十日(土)

東京発午後十時、日航機六
十便。日付変更線通過。
ホノルル着午前九時十五分
少憩後、午後真珠湾に
て戦没者慰霊祭(予定)

四月十一日(日)

午前中、ハワイ仏教徒連盟
主催の「ハワイ花まつり大
会」祝典に参列。午後オア
フ島視察。慰霊祭の予定。

四月十二日(月)

ホノルル発午前十一時四十
五分、ハワイ航空機一四
二便。
ヒロ着午後十二時四十七分
到着後は自由行動。

四月十三日(火)

ヒロ発特別バスにてコナヘ
キラウニア火口、ボルケ
ノハウス、カラパナ海岸
などを視察。

四月十四日(水)

コナ発午前十一時二十五分
ハワイ航空機三五七便。
 Maui着午前十一時五十七
分。 Maui島視察。現地
仏教徒と懇談。

四月十五日(木)

Maui発正午、アロハ航空
機七九一便。午前中 Mau
i島ハレアカラ火山等視
察。

Maui着午後一時三十三
分。しだの洞窟など視察

四月十六日(金)

午前中ワイアアメ溪谷、スバ
ウテイングホーン等視察。
 カウアイ発午後五時十分、
 アロハ航空機七三〇便。
 ホノルル着午後五時五十分

四月十七日(土)

ホノルルで自由行動。夜は
ハワイ仏教徒連盟主催晩さ
ん会に出席。

四月十八日(日)

午前中、仏教日曜学校、寺
院活動視察。
 ホノルル発午後五時三十分
日航機八〇一便。

四月十九日(月)

東京着午後九時二十分。

1 旅行期間 四月十日より十九
日まで(十日間)

2 総経費 金三十六万円

3 申込金 金三万円(総経費
に含む)は全仏へ
現金書留で送付の

長野県仏理事会

長野県仏教会では昨年十二月に
全日本仏教徒会議(八月二十八日
(土)二十九日(日)の両日、長
野大会の引受けが正式に決定して
以来、役員幹部の間では種々会合
が行なわれていたが、この程二ヶ
月ぶりに長野県仏理事会が二月十
八日一時から大勧進に於いて開催
された、出席者は、県仏理事、県
内支部長、善光寺事務局、全仏組
織局、全日仏婦、全日仏青、県仏
婦、県仏青、の三十名。



会議は松本宗順大北地区仏教会
長の司会で開会の辞を半田県仏会
長、黒田白純全仏組織局長、若麻
績正見善光寺事務局長、船口暉子
全日仏婦事務局長、山田一真全日
仏青事務局長、が夫々挨拶をのべ
沼田亮義座長の下議事に入った。

組織専門委員会

大会参加者は、会場の許容量が
決っているので二千五百人とし、
県外参加者六百名を予定した場合
県内より千九百名の参集を求めら
れる事になるが、宗派、仏婦、仏青、
寺院檀信徒、と推せん母体が別れ
ても、挙げて全仏大会の和合衆と
して小異を捨て、大同につく、の
精神を強調し、和やかなうちに
活潑な討議がなされた。

岩本昭典副委員長に

新年第一回の組織専門委員会が
さる二月九日三時より日比谷松本
楼に於いて開催され栗本俊道委員
長が議長に就いた。
議題(1)の昭和四十年年度組織局事
業計画について諮問され、阿部新
部長が概括的に説明し、特に墓地
問題については杉本良智副委員長
より、第七回回院選挙については
狩野護麟副委員長より、農地問題
については鈴木敏範副委員長より
それぞれ詳細に亘って現況説明が
なされた。
議題(2)の組織専門委員会嘱につ
いては、前岩本昭典部長が在任中
の手腕を買われ、組織専門副委員
長に全員一致で推挙され委員長よ
りの依頼で岩本委員も承諾した。

ブラジルだより

二月三日午前八時真言宗醍醐派
修験道米開教監督の岸田英山太
僧正が、ブラジル宗教界視察のた
め、パンアメリカン機でピラコワ
ホス空港へ到着、同十二時に宿舎
オートンバラッセルホテルへ入った。
今度の岸田大僧正の来伯は非公
式であったが、サンパウロ州統領
は特に宗教使節の礼をもって迎え
るよう指図し、名代として日系武
官を空港まで派遣した。尚当日は
真言宗各派代表、ブラジル仏教徒
協議会など僧俗数百名を越える盛
況ぶりであった。(サンパウロ発)

セイロン 台風災害救援金(1)

- 一、金六千円也 千葉県仏教会殿
- 一、金五千円也 静岡県仏教会殿
- 一、金一万円也 金閣寺殿
- 一、金二千円也 岡部純一郎殿
- 一、金五千円也 法華宗陣門流宗務所殿
- 一、金二千円也 真言宗山階派宗務所殿
- 一、金参千円也 妙心寺古川大航殿
- 一、金一万五千円也 相国寺派殿
- 一、金参万参千五百拾参円也 妙心寺殿
- 一、金六千円也 千葉県仏教会殿
- 一、金五千円也 静岡県仏教会殿
- 一、金一万円也 黒田白純殿
- 一、金五千円也 泉涌寺殿

昭和40年度財団法人全日本仏教会 歳入歳出予算

歳入
1 金 13,193,000円 歳入予算高

歳出
1 金 13,193,000円 歳出予算高

歳入歳出差引残高なし

昭和40年度財団法人全日本仏教会歳入 歳出予算

歳入

※単位 円

| 科 目 | 予 算 額 | 前 年 度 比 較 |
|-----------|------------|----------------------|
| 款 項 目 | 予 算 額 | 予 算 額 ○ 増 △ 減 |
| 1. 負担金 | 12,148,000 | 11,910,000 ○ 238,000 |
| 1. 各宗派負担金 | 10,858,000 | 10,620,000 ○ 238,000 |
| 2. 各団体負担金 | 1,290,000 | 1,290,000 |
| 2. 寄付金 | 500,000 | 470,000 ○ 30,000 |
| 3. 未徴収金 | 100,000 | 100,000 |
| 4. 基金果実 | 35,000 | 35,000 |
| 5. 雑収入 | 400,000 | 950,000 △ 550,000 |
| 6. 繰越金 | 14,000 | 10,000 |
| 歳 入 計 | 13,193,000 | 13,475,000 △ 282,000 |

歳出

| 科 目 | 予 算 額 | 前 年 度 比 較 |
|----------|-----------|---------------------|
| 款 項 目 | 予 算 額 | 予 算 額 ○ 増 △ 減 |
| 1. 事務局費 | 7,472,000 | 7,264,060 △ 208,000 |
| 1. 人件費 | 4,764,000 | 4,714,000 ○ 50,000 |
| 1. 職員俸給 | 3,330,000 | 3,330,000 |
| 2. 諸給 | 1,084,000 | 1,084,000 |
| 3. 厚生費 | 200,000 | 200,000 |
| 4. 退職積立金 | 150,000 | 100,000 ○ 50,000 |
| 2. 事務費 | 1,408,000 | 1,250,000 ○ 158,000 |
| 1. 借館借室費 | 450,000 | 400,000 |
| 2. 通信費 | 470,000 | 450,000 ○ 20,000 |
| 3. 消耗費 | 85,000 | 50,000 |
| 4. 光熱費 | 20,000 | 20,000 |
| 5. 備品費 | 150,000 | 150,000 |

| | | |
|---------------|------------|----------------------|
| 6. 印刷費 | 200,000 | 150,000 ○ 50,000 |
| 7. 雑諸費 | 33,000 | 30,000 ○ 3,000 |
| 3. 旅費 | 700,000 | 700,000 |
| 4. 関西事務局費 | 600,000 | 600,000 |
| 2. 総務局費 | 1,741,000 | 1,711,000 ○ 30,000 |
| 1. 会議費 | 741,000 | 741,000 |
| 1. 理事会費 | 81,000 | 81,000 |
| 2. 評議員会費 | 110,000 | 110,000 |
| 3. 各種委員費 | 200,000 | 200,000 |
| 4. 会議費 | 350,000 | 350,000 |
| 2. 共通事項処弁費 | 250,000 | 220,000 ○ 30,000 |
| 3. 調査研究費 | 200,000 | 200,000 |
| 4. 資料作成費 | 150,000 | 150,000 |
| 5. 渉外費 | 400,000 | 400,000 |
| 3. 組織局費 | 2,150,000 | 1,250,000 △ 900,000 |
| 1. 組織強化費 | 1,050,000 | 1,250,000 △ 200,000 |
| 1. 組織強化費 | 450,000 | 550,000 △ 100,000 |
| 2. 国内仏教徒会議費 | 600,000 | 700,000 △ 100,000 |
| 2. 時局対策費 | 500,000 | 700,000 △ 200,000 |
| 3. 弘報費 | 600,000 | 550,000 ○ 50,000 |
| 1. 機関紙発行費 | 500,000 | 450,000 ○ 50,000 |
| 2. 宣伝報道費 | 100,000 | 100,000 |
| 4. 文化局費 | 800,000 | 800,000 |
| 1. 文化会議費 | 300,000 | 300,000 |
| 2. 教化費 | 500,000 | 500,000 |
| 1. 講習会費 | 150,000 | 150,000 |
| 2. 教化諸費 | 350,000 | 350,000 |
| 5. 国際局費 | 760,000 | 910,000 △ 150,000 |
| 1. 国際運動費 | 760,000 | 910,000 △ 150,000 |
| 1. 海外仏教使節接待費 | 300,000 | 300,000 |
| 2. 世界仏教徒文化交流費 | 160,000 | 160,000 |
| 3. 国際仏教運動費 | 300,000 | 450,000 △ 150,000 |
| 6. 雑費 | 50,000 | 77,000 △ 27,000 |
| 7. 予備費 | 220,000 | 213,000 ○ 7,000 |
| 歳 出 計 | 13,193,000 | 13,475,000 △ 282,000 |

寺院経営の効・保・日校教材として必備

遂に出た!!
待望のレコード

仏教子ども行事音楽レコード

仏教子ども行事音楽

全国青少年教化協議会 選定
全日本仏教会 推薦

発売元
キングレコード



¥1,000 (17cm盤4枚1組)
豪華カートンボックス入り
楽譜・振付き
(送料実費)

子ども花まつり(お花あげまし、捧げまし)石井玲子
花まつり行進曲(むかしもむかし三千年)井口 小夜子
魂まつり(そらはすずかぜおほしさま)ひばり児童合唱団
少女盆おどり(かねがなるなる 野山に町に)須藤敬子
仏の子ども(のびよのびよぐんぐんのびよ)井口小夜子
別 の 歌(あさなあさなにみおしえあおぎ)ポーチエ・アンジェリカ
成道会の歌(ひがしのそらにおほしさま)杏間 京子
涅槃会(みんなみんなないてます)ポーチエ・アンジェリカ

申込方法

このレコードご希望の方は全日本仏教会へお申込み下さい。折返し振替用紙(送料実費記入)を送付いたします。振替用紙到着後5日以内にレコードを送付いたします。

■東京都中央区築地 3-1 (本願寺内)
全日本仏教会

取扱い 全日本仏教会

昭和四十年年度 全仏事業計画

総務局

- 1、財団基金の拡充対策
昭和四十年度も継続して行なう。

組織局

- 1、第十三回全日本仏教徒会議
(長野大会)の開催
昭和四十年八月二十八日(土)二十九日(日)の両日、長野市民会館に於いて会同者二千五百名を目標とする大会を実施する。
本大会に於いては、特に、各宗団の檀信徒組織化を計るべく企画を行なう。

- 2、東北地方の組織強化のため未加盟県(福島、青森、山形)の本会加盟勧誘運動を推進し、加盟県仏について組織強化方策を本会より積極的に関与し、東北ブロックの確立を期するよう努力する。
- 3、社会福祉関係者の全国的組織化を図るため、各宗団の担当者の会等を通じ、協議体により連絡機関の設置をなす
- 4、昭和三十九年実施の加盟団体調査に基づき、特に仏教系学校の実体を把握し、組織問題について検討する。
- 5、墓地行政訴訟の最高裁に於ける法廷闘争を継続する。

文化局

- 6、第七回参議院議員選挙について、本会よりの推薦方式を立て、これにそつての選挙運動を本会に許される範囲に於いて行なう。
- 7、急変する状況に即しその処置を施すために準備をなす。特に、権益擁護については問題惹起と共に可動的に委員会組織をもち解決策をおおずる

文化局

- 1、日本仏教文化会議員増員
千名目標にその都度
- 2、文化会議の開催
東京会議 六月
京都会議 七月
仙台会議 七月
金沢会議 八月或は九月
- 3、地域仏教会との研修会
常例として月一回
- 4、講習会開催
仙台市にて六月。(東北地域未加盟県仏加盟目標として組織局と連絡の上)
- 5、仏教徒憲章
(イ) 新仏教徒読本
(ロ) 実践要項
(ハ) 昭和三十九年度継続事業として、四十年十月印刷製本完了の予定。(専門委員中より特別委員を選出審議四十年一月第一回例会を開催。)マスコミ審議機関の設置、十月完成、摩尼清之師を主査
- 6、

国際局

- 7、現代思想問題の指導理念の制定十月完成。松本徳明師を主査として。
- 8、花まつり。読売ランドに於いて共催(読売新聞社と)
- 9、その他
(イ) 小笠原武男脚色、映画「釈迦」の協力
(ロ) 現代仏教芸術院の応援賛助
(ハ) 関東仏教学生音楽への賛助
- 1、海外仏教使節接待に関する事項
最近東南アジアをはじめ欧米各地から仏教研究または親善の目的をもって来日する仏教徒が非常に多くなつてゐるので、これが受入れ接待を出来得る範囲において行なわんとする。
- 2、世界仏教徒文化交流に関する事項
(イ) 招請に基づく代表団の派遣
ヤング・イースト誌の海外発送(年四季)
(ロ) 在日仏教留學生の調査と結果をはかる。
(ハ) 在日大公使館並びに在外日本大公使館との連絡。
(ニ) 中国に於ける各宗祖師顕彰に関する事業の協力
(ホ) 全仏婦連日米交換会議への協力
(ト) 海外各宗開教本部との連絡および調査。
(チ) 沖繩仏教連合会との提携

- 3、国際仏教運動に関する事項。
(イ) ハワイにおける花まつりに代表団派遣。
(ロ) 世界仏教徒連盟本部へのニュース提供および分担金。
(ハ) 日本セイロン協会等への協力提携。
(ニ) 英文ニュース発行の予定
(ホ) 仏教徒文化交流事業への積極的協力。
(ト) 在外宗教施設返還運動(継続)
(チ) 日本仏教代表団を各地へ派遣し、仏教による友好親善と世界平和実現に努力する。
(リ) 名実共に世界仏教徒連盟となるための調整に努力をする。
- 4、日本仏教徒の海外渡航に関する事項。
東南アジア各国をはじめ諸外国への渡航については、真に日本仏教の代表権をもつ者を派遣してほしいとの在外公館長会議および現地大使館等より申し入れを受く、本会は今後この線によって十分なる調整対策を講じたい。

南ベトナムの情勢をきく 大谷よし雄氏 歓迎報告会

先般自民党から南ベトナム情勢視察を命ぜられて去る一月三十一日空路サイゴンへ向つた参議院議員、全仏参事、大谷賢雄氏ら一行は、二月十三日帰国したが、全仏では同十八日午後二時より大谷氏を迎えて築地本願寺において報告会を開催した。

大谷氏は、サイゴンの南ベトナム仏教統一教会において代表のティック・ナム・チャウ師に会見したが同師はクレーター成功で一応平静を保っているが、今なお政府の中にカトリック系のカンラオ党(勤労党)と云うゴ前内閣当時の秘密警察がいて、仏教徒の活動を禁止する傾向が強く、我々を共産主義者呼ばわりしているのは全く心外である。私は北ベトナムから逃げて来た位だからコミニズムの恐ろしさは身にしみる程知つてゐると云つてゐた。対米感情はテラー大使個人に對して悪いようだ。つまり国民一般に對する愛情ある理解の不足と云うことのある。一般国民は長年の政府要人の権力闘争や汚職、それに海外留学の面でも仏教徒に門戸を開いていないと云つたことで不平等が絶えないやうで、私もチャン・パン・フォン首相に会見の際に、全国民の八割以上を仏教徒にもつているのだから、今までのやうなやり方ではいけない。彼等に深い愛情と理解をもたねばならないと進言して来た。なおサイゴン大司教とも会つたが、彼は各宗教を夫々尊重している。決して仏教を下げずんだり軽蔑したりしてはいない。私達は政治に干渉しようとはしていない。だから政府から軍民委員の一員に加入されたいと要求を拒否している位であると語り、非常に友好的な雰囲気の中に二時間に亘る会談を終えた次第である。

私は今後政局さえ安定して行けば宗教差別と云つた混乱は起らないだろうと思つた。佐藤総理も日本と同じく大乗仏教を信奉している南ベトナムのため、政府も出来るだけの援助はしたいと述べて出来るやうな次第で、現地の仏教徒代表から要請があれば、日本仏教徒代表も激励と友好増進のためサイゴンへ赴いても良いのではないかと思つてゐる。と語つた。

当日は小野清一郎全仏顧問、金剛秀一常務理事、岡野正道夫妻ら三十名が参集した。